



発行所  
 十勝毎日新聞社  
©十勝毎日新聞社 2007  
 〒080-8688  
 帯広市東1条南8丁目  
 TEL(代表)0155-22-2121  
 編集局 0155-22-2121  
 広告局 0155-23-2323  
 販売局 0155-24-2222  
 事業局 0155-22-7555  
 総務局 0155-24-2299



実験中のリフティングボディ型機体を整備するJAXA職員ら

# 翼最小化し 胴体で揚力

## JAXA

大樹で宇宙往還機の飛行実験

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、翼を最小化し、胴体で揚力を得る機体「リフティングボディ」型の宇宙往還機の飛行実験を町多目的航空公園で行っている。19日には5分の1の大きさ

の無人実験機をヘリコプターでつり下げ、着陸時の機体を取り巻く空気の流れなどのデータを取った。実験は23日まで続き、今回のデータを基に来年度、自動着陸試験を同公園付近で行う予定。宇宙往還機は翼のあるスペースシャトルが一般的だが、翼は打ち上げ時や宇宙では必要なく、着陸時に使う。「リフティングボディ」は翼の最小化で効率化や軽量化などが期待されるが、翼で揚力を得るタイプに比べ、自動着陸が技術的に最も困難とされる。

実験機は繊維強化プラスチック(FRP)製で全長2.3メートル、重さ30キログラム。JAXAは7、8月に約10日間、同公園で1回目の実験を行い、今回は最終調整と位置付けている。11日に研究者らが現地入りした。

19日は実験機をつり下げたヘリコプターが同公園から太平洋上に出る回、飛行中に地上からの電波の送受信やGPS(全球測位システム)などが正しく作動するかなどをチェックした。21日からは着陸後の滑走路引後に切り離すテストを繰り返す。

JAXA宇宙基幹システム本部の中安英彦フェローは「今回のデータをもとに、世界初となるリフティングボディ型の自動着陸を成功させたい」としている。(北雅貴)